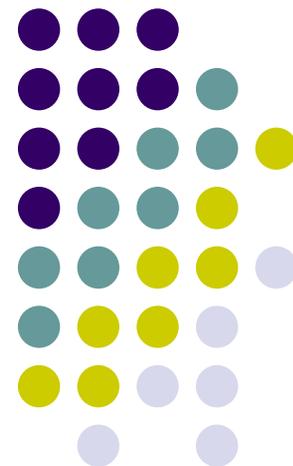


# 第3回訓練(個別要素訓練)(案) について

平成19年1月15日(月)  
食品安全委員会事務局





# 1 . 平成 1 8 年度緊急時対応訓練について



## 目的

- 食品安全委員及び事務局員が緊急事態及び緊急時対応の共通認識を持つ。
- 対応力や判断能力を向上させる。
- 緊急時対応マニュアルの適確性を確認する。
- 緊急時対応手順を確認する。
- 定められた対応を迅速かつ確実に実施する。



# 訓練形式

訓練形式	特徴
研修会	座学を中心として、基礎的知識及び専門知識の習得を図る。さらに組織が抱える未解決の課題等についても議論を深めておく。
机上 シミュレーション	実際に体を動かすものではなく、イメージ力の向上や、判断能力の向上を目的とする場合に適した訓練。また、空間的あるいは時間的な制約がないため、例えば災害の長期化に関する課題の抽出等、実際の訓練では実施が困難な事項の検討にも適している。
シナリオ提示型 訓練	対応手順や連携の確認に主眼をおくため、事前に訓練シナリオを提示する訓練。実践的な対応力の向上には向かない。
シナリオ非提示 型訓練	訓練シナリオを事前に提示しない形式の訓練で、完全な抜き打ち訓練ではないが、訓練参加者(プレイヤー)は訓練中にコントローラーから付与される情報(状況)に基づき自ら判断し行動する。実践的な対応力を検証するのに適している。
抜き打ち訓練	訓練開始のタイミングでさえも事前に参加者に伝えない訓練。シナリオ非提示型訓練よりもより現実に近い状況設定となるが、訓練による混乱防止の観点から、対象範囲は限定される。



# 訓練規模と特徴

訓練規模	特徴
要素訓練	<p>訓練対象となる緊急時対応の要素ごとに検証する 単独で実施、あるいは他の訓練項目に影響を与えないため、 実効性・実践性の高い訓練形式を選択可能 他の訓練項目と共通の時間軸にのらない訓練項目の場合 に適用</p>
総合訓練	<p>複数の訓練項目を併せて実施して全体の連携を確認する 全体フレームを動かすため防災体制の理解増進につながる 要素訓練の成果を確認する 多くの場合シナリオ提示型訓練を基本とする。ただし一部に シナリオ非提示型訓練を組み合わせることは可能</p>



# 今年度の訓練について

回	テーマ(目的)例	種類	内容例
第1回	緊急事態についての展開イメージの共有	机上シミュレーション	関係者が一堂に会し、緊急事態を設定の上、時系列に沿って、想定される事態の進展、初動体制の段取り等、マニュアルの分掌に則り話し合う。
第2回	緊急時マニュアルの実効性検証	実動訓練(シナリオ非提示型)	訓練対象者に緊急事態に関する情報を適宜付与。訓練対象者は、マニュアルに従いつつ、臨機応変に判断・行動する。
第3回	緊急時広報に関する対応能力の向上	個別要素訓練	訓練対象者が、専門家レクチャー受講、広報文案の作成、記者会見の模擬実施等を行う。



## 2 . 第3回訓練(個別要素訓練)(案)について



# 第1回訓練において抽出された課題

- 利用可能、設置可能な会議の種類と対応範囲の確認（緊急対策本部を含む）
- 緊急時対応における事務局の体制の確認
- **情報提供体制と手順の確認**
  - 国民へ
  - マスコミへ
  - 専門委員等へ



## 第3回訓練の目的

食中毒による被害が拡大化している中で、  
食品安全委員会としてどのような情報発信を  
するべきかを訓練する。

外部への発信能力の向上

緊急時対応の実践能力の向上



## 第3回訓練の内容(案)

- **レクチャー**
  - 緊急時における情報提供のあり方についてレクチャーを受ける。
- **情報提供のあり方についての検討**
  - 緊急時における情報提供のタイミング、内容等について机上で検討を行う。
  - また、検討結果をうけ委員長談話等を作成する。
- **模擬記者会見**
  - シナリオに応じた記者会見を模擬的に設定する。